

前加東市議会議員

藤尾 潔

活動報告 52 2026.3



3月20日には、旧加東郡社町・滝野町・東条町が合併し加東市が誕生して20年の節目を迎えました。合併当時「これから“町”から“市”になり、新たな歩みを進めるんだ」と感じたことを思い起こします。加東市として20年培ってきた土台を礎に、加東市が持続可能な発展を続けられるよう今後も考えていきたいと思っています。

加東市議会の自主解散

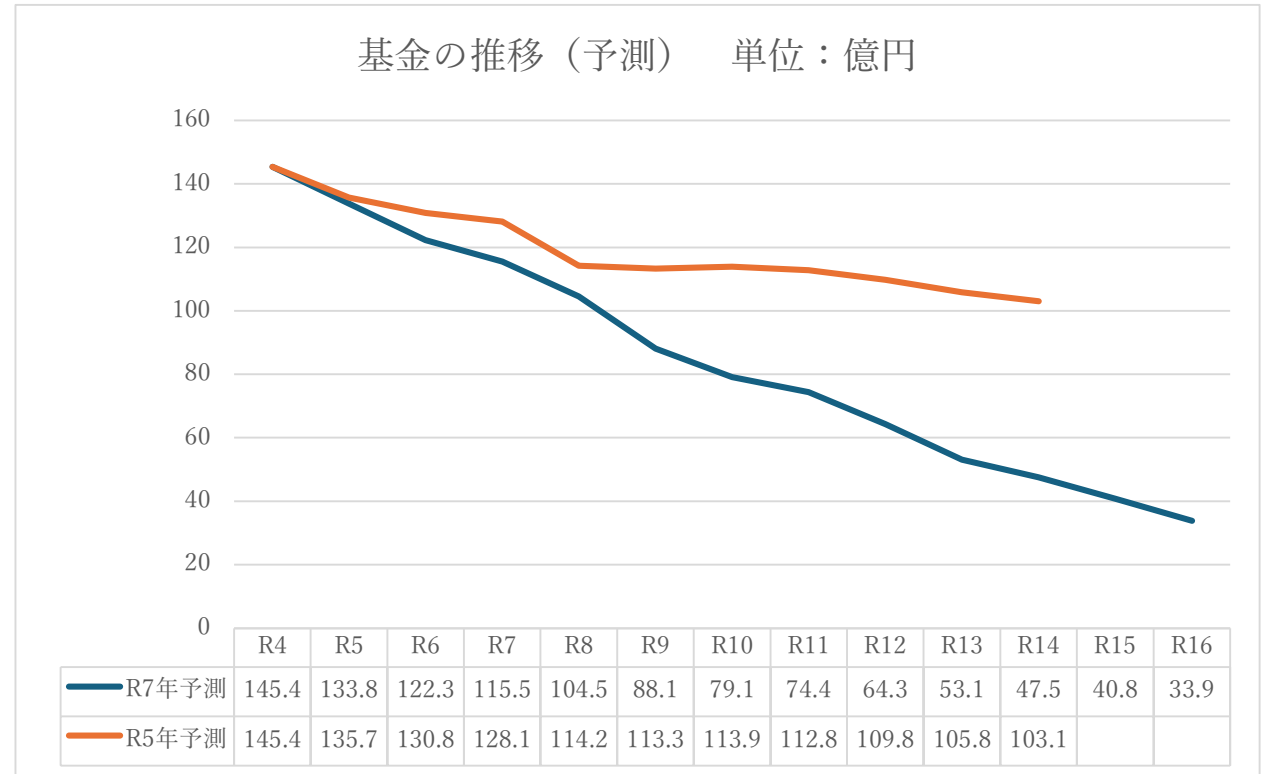
3月23日、加東市議会は市長選挙との同時選挙実施のため、「加東市議会の解散に関する決議」を賛成多数（賛成14反対1）で可決し、自主解散しました。本来合併した場合は直後に市長・市議選が行われるのですが（近隣の西脇市・多可町でも同様）、加東市では合併時に議員の“在任特例”を適用したため任期に半年のズレが生じました。合併する際は旧3町の人口比に対する警戒感などから在任特例の適用はやむを得なかったように感じますが、合併して20年。いつまでもその影響を引きづっていくわけにはいきません。今回の同時選挙により約1500万円の経費の節減にもつながります。（節減というより、あるべき姿に戻っただけなのかも知れません…）

ただ一つ残念だったことは、唯一人反対された大城戸議員が「定数を14名に減らしたとしても、議員報酬を小野市並みに上げれば報酬の全体額は上回る」「市民への還元ではなく議員への取り分のつけかえにしか見えない」「節税を隠れ蓑にした疑惑の影を感じる」などと、**現在全く検討もされていない議員報酬アップの話を持ち出し、仮定の話で**討論を行われたことです。反対されるのは別に構わないのですが、事実無根の話が拡散しても本当に困ります。

今回の決定を受け4月26日には市長選挙・市議会議員選挙の同時選挙が行われます。また、今回から議員定数も14名に減となりますが、そのことが議会力の低下につながらないよう、議員一人一人がさらなるパフォーマンスを発揮していかなければならないと考えます。

市の財政状況は

市の財政状況についてお尋ねをいただくことも少なくありません。加東市を持続可能な形で発展させていくためには、財政の礎あってこそだと思います。今回、加東市の基金（貯金）残高について書きたいと思います。



（加東市財政計画より筆者作成）

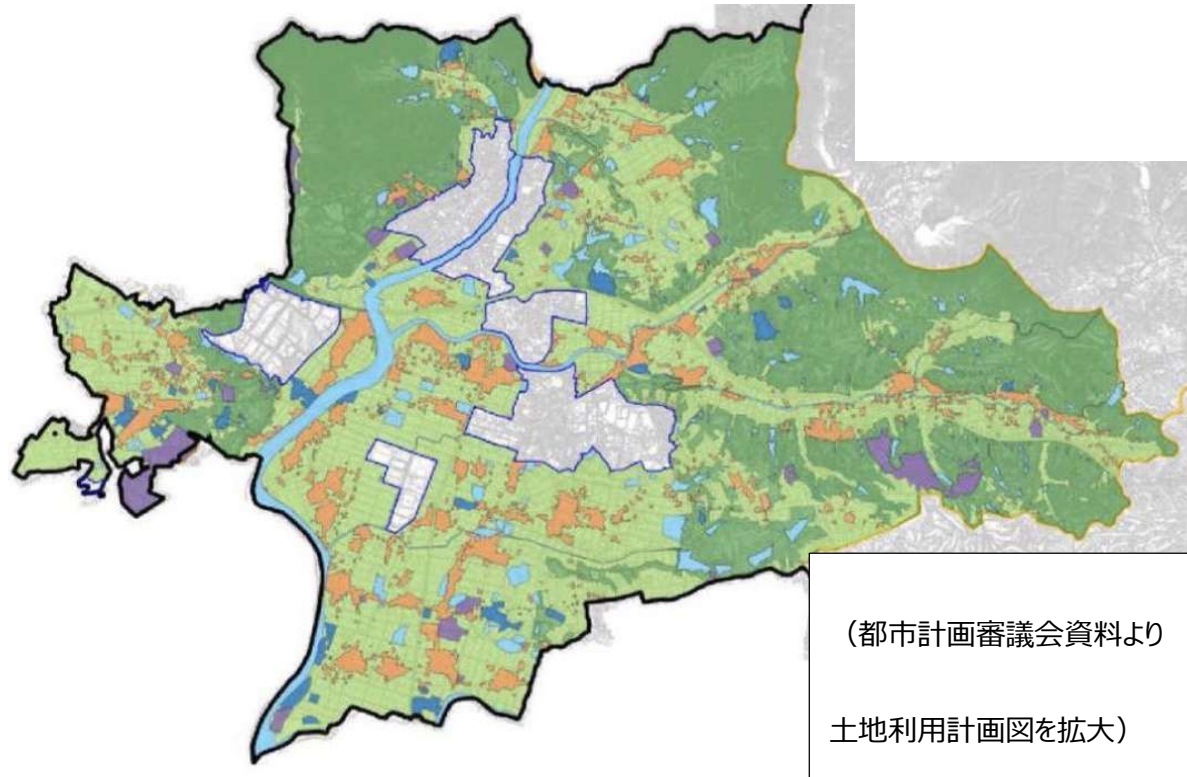
オレンジのグラフが、財政状況をふまえて令和5年に予測していた基金残高のグラフ。紺色が令和7年に予測した基金残高のグラフになります。令和7年の予測のほうが減りが激しい（貯金の減りが大きい→毎年の支出超過が大きくなっている）ということになります。それにともない令和14年の基金残高にも大きな差がでています。要因としては、小中一貫校を始めとした建設費の高騰や、小野クリーンセンターの建て替え、新産業団地創出に係るインフラ整備費、などが挙げられます。

基金がなくなってから急激な市民負担をお願いすることなど絶対あってはなりません。継続的な行財政改革をより強く意識するとともに、今後は投資的事業についてより慎重な判断が求められると考えます。

区域区分（市街化区域・市街化調整区域）の見直し

この項目は現在検討中であり、決定までに大きく変わる可能性があります

加東市の抱える課題の一つに、市街化調整区域における建築制限が厳しく、地域の活力の低下につながっていることがあります。そのため、**加東市では令和11年度を目途に市街化区域・市街化調整区域の区域区分（線引き）を廃止することを検討**しています。私も都市計画審議会委員としてこの審議に関わってきました。



図の着色されている部分が市街化調整区域になりますが、オレンジ色の現在集落になっている部分については、建築制限の緩和が地域の活力維持につながるとは思います。一方で大規模開発や生活環境への影響を及ぼさないよう配慮も必要です。

黄緑の農業区域においては、区域区分が廃止されても農振法の転用の規定が変わる訳ではないので、農振農用地等転用の許可が下りづらい地域で建築がしやすくなる訳ではありません。一方で、転用が可能な土地の宅地化が進む可能性があります。

市街化区域・市街化調整区域の線引きが加東市のまちづくりに大きな影響を与えたのと同様に、廃止した場合も大きな影響があります。今後の真摯な議論が必要です。

部活動の地域展開

部活動は学校教育の一環として重要な役割を担ってきましたが、近年では少子化による部員不足、教員の働き方改革の観点から部活動改革の必要性が提唱されてきており、私も数度にわたり一般質問で取り上げてきました。

結論として、加東市では**令和10年度の総体等をもって学校管理下の部活動を廃止し、地域展開していくこととなりました**。言い換えれば今年中学校に入学した生徒は中3まで部活動ができますが、令和9年入学の生徒は中2の総体等まで、令和10年入学の生徒は中1の総体等までしか部活動ができないこととなります。それまでに、受け皿となる、地域で支える『地域クラブ』を整備していく必要があります。加東市では、中学生の競技力向上を目指すタイプ、大人とともに多世代での交流を目指すタイプなど、現在21団体が認定されています。

中学校の卒業式に来賓でお招きいただくと、在校生の送辞や卒業生の答辞などで部活動の思い出が熱く語られ、申し訳ない思いもあります。ただ冒頭で述べたように、今後とも学校管理下で部活動を継続していくことは相当無理があると考えます。繰り返しになりますが活動の受け皿を増やすとともに、部活動になかった新たな種目・活動への広がりなど、新たな展開につなげていければ と思います。

●私が考える市の重点課題

1. 健全財政維持を基本とした、加東市の持続的な発展
2. 産業団地創出に加え、イオン社店周辺を中心市街地活性化構想の加速および公共交通ネットワークの構築
3. 都市計画の見直し等を通じた地域の活性化
4. 部活動の地域展開および小中一貫教育のさらなる質的向上による教育の充実

前加東市議会議員 藤尾 潔

〒673-1431 加東市喜田 50-7（前回から住所が変わっています） ☎0795-42-5155

http://www.fujikiyo.net メール：kiyopf@gmail.com LineID:kiyopf

関西学院大学大学院経営戦略研究科修了 学童保育支援員 ケアマネジャー